

情報通信審議会 情報通信技術分科会

I Pネットワーク設備委員会 ワイヤレス固定電話検討作業班（第6回）

議事要旨

1 日時

令和2年9月14日（月）15時00分～16時10分

2 場所

Web開催

3 出席者（敬称略）

（1）作業班構成員

内田 真人（主任）、梅内 智元、恵木 則次、折原 裕哉、川西 直毅、高橋 玲、
武居 弘純、田中 絵麻、田中 晋也、中村 信之、松岡 弘高、山内 由紀夫

（2）総務省

鈴木 厚志（番号企画室長）、細川 貴史（電気通信技術システム課認証分析官）、恩
賀 一（安全・信頼性対策室長）、西室 洋介（電気通信技術システム課課長補佐）、
中川 将史（事業政策課課長補佐）

4 議事

（1）開会

- ・事務局（西室課長補佐）より、Web会議による開催の旨説明があった。

（2）議事

（2-1）ワイヤレス固定電話検討作業班報告（案）について

- ・事務局（西室課長補佐）より、資料ワ作6-1及び6-2に基づき、ワイヤレス固定電話検討作業班報告（案）について説明があった。
- ・説明終了後、意見交換を行った。主な意見や質疑は以下のとおり。
- ・内田主任より、作業班報告（案）については本日の議論を踏まえた修正の後、次回のI Pネットワーク設備委員会において、報告を行うことについて説明があった。

【(1) 事業用電気通信設備の範囲について】

○ターミナルアダプタを事業用電気通信設備として扱うことによって、通信の秘密もケアしなければならなくなった際に、NTTにおいて利用者から同意を取るということだったが、電話は双方向なので、ワイヤレス固定電話以外の契約者の通信の秘密を扱うようになった場合はどのように同意を取るのか、もしくは同意を取らないで済むような適用除外があるのかが気になっている。

→通信の秘密については、個別具体的な場合で検討しなければならないので、ここで何か一般論を言うのは難しい。また、技術基準の話というより、事業法全体の話であり、別の場所で整理することが適当だと思われる。

【(3) 電気的特性及び信号方式について】

○前回作業班において、これらの規定を課すことについて技術的に問題ないかどうか持ち帰り確認としていたが、結果を伺いたい。

→NTTにおいて事務局案で問題ないことを確認した。

【(5) 音声伝送に係る通信品質について】

○前回作業班の後、サンプル音声を構成員において確認したが、それを踏まえてご意見等をお願いしたい。

→無線ということもあり、離散的に音が途切れ聞き取れない瞬間があるとしたら、POLQA値が高くても明瞭性の観点から問題があると思っていた。しかし、確認した限り、今回の品質の劣化は、主に低ビットレートの音声符号化により定常的に音声がひずむという劣化のため、POLQA値が一定の値を出しているのであれば、明瞭性等の観点で問題ないと思う。

→それなりに悪くなっていると予想していたが、普通に電話をしているときの音声として申し分ない品質だと感じた。確かに注意深く聞けば、少し音声が丸まっているようなところはあったが、明瞭性の観点からは問題ないレベルだと感じた。

○資料ワ作6-1の17ページ目中段の、斜体括弧書きの箇所について、作業班で聞いたのでこの数値になったというより、「国際基準に鑑みて3.6という数値を採用した」というのが数字の根拠であり、「作業班においてもその音声品質に問題がないことを確認した」というのはあくまで参考的な位置づけではないか。

→そのような書き方に修正する。

→遅延については400ms未満等とすることが適当であると書かれており、一方で、POLQA値は3.6より上の品質となることについては努めるべきとなっている。これは「適当」の方は必達で、「努める」の方は努力義務という配慮なのか。

→遅延もPOLQAによる値もどちらも必達として同じように規定することになるので、表現を統一し、「適当である」と修正する。「望ましい」という表現も同様に修正する。ユニバーサルサービスなので、下限を作る必要があるという考えで、最低限会話ができる値を出しているところ。遅延の400ms等の規定により会話ができるということを保証しないと、利用者側からすると保護が全くないことになってしまう。完全に努力値、自主基準だけという訳にはいかないと考えている。両端ワイヤレスについては、幅があると思われるので、自主基準ということにさせていただいた。

○資料ワ作6-1の18ページについて、表には記載がないが、POLQA値も95%値ということで良いか。

→ご認識のとおり。表を修正する。

○前回の作業班において、品質報告の測定が最繁日でない場合は、そういった影響を考慮する必要があるのではないかという指摘があった。今回測定を行った日は最繁日には該当していなかったが、最繁日と測定日との差分を見たところ、遅延については数ms前半、パケットロスについても差分なしで、網のトラヒック負荷による影響は軽微と想定している。

【(7) 緊急通報等について】

○呼び返しの5機能具備について、前回の作業班で持ち帰りとなっていた実現性を確認したい。

→5機能の具備という方向性は賛同。一方で、どのように実現するかを事業者間で議論しているところであり、そういった点が考慮された書き方になっている。引き続き事業者間で議論を深めて、実現に向けた検討を進めていきたいと考えている。

(2-2) その他

・事務局より、今後の予定について説明があった。

(3) 閉会

- ・内田主任より、本日の会合を終了する旨説明があった。

以上